



ゆんたく 都島

2017 Vol.26

都島

Contents

理事長 巻頭MESSAGE

都島友の会の乳児保育

New Face 新しい仲間をご紹介します!!

都島友の会の特別保育と子育てサロン

沖縄「おきなわ作品展」/都島児童館/平成28年度各園各施設の取り組み

リクルート活動・福利厚生活動/比嘉正子地域貢献事業研修センター ひまわりネット

大阪の小学校の現状/本部からの報告/ゆんたくinformation

社会福祉法人 都島友の会

都島友の会、 乳児保育の 先駆者としての歩み

社会福祉法人都島友の会 理事長 渡久地 歌子



都島友の会は平成29年3月1日で創立86年を迎えました。

昭和6年(1931)、都島公園で青空保育を開始し、山野家のご厚意で借用できた土地と園舎(都島幼稚園から私どもの幼児教育、幼児保育の歩みは始まりました。やがて昭和6年(満州事変)、昭和12年(支那事変)、昭和16年(太平洋戦争)と続き、昭和20年3月、大阪府知事名で都島幼稚園の閉鎖命令が出され、6月には大阪空襲で園舎は焼け、焼野原となりました。その2ヶ月後の8月15日、日本は敗戦となりました。日本も都島幼稚園もすべては海の藻屑と消えたようなものでした。

しかし戦後、日本は再建に取りかかります。比嘉正子も大阪の地で焼野原をさまよう子どもたちの姿を見た時、この子どもたちを見放してよいのかと歯を食い絞る思いで園の再建に取りかかります。通称「子どものお宿」「子どもたちのやすらぎの家」、これが前号で紹介した都島児童館です。

昭和22年児童福祉法制定、23年に児童福祉施設最低基準公布施行、昭和26年児童憲章制定と児童福祉の法制化は進み、民間保育所の設立は増えてきましたが、その姿は養護中心の保育所でした。

昭和30年代の日本は高度成長によって女性の社会進出が進み、それと共に、「子どもは社会の子ども」として集団の人間関係の中で育てようとする、「託児」から「保育」へと向かう変革期に入ります。大阪市でも多くの新しい施設が生み出されました。地域の一般家庭で子どもを預かる家庭保育制度を全国に先駆けて新設。2歳児を対象とする低年齢児童保育室も設置されます。昭和34、35年度には民間保育所に年間4000万円の貸付金制度を作り、乳児保育専用設備を作ること大阪府は奨励しました。しかし本格的な乳児保育は進みませんでした。社会や行政においてもまだまだ乳児保育に対する理解はまだ乏しかったと思います。

そのようにまだまだ0歳児を受け入れる園がなかったました。園舎には廊下からも保育室からも出入りができる両面扉構造の専用ロッカーやおしめ交換台など独自のアイデアも盛りだくさん、おしめや布団は持参することなく業者にお願いをするシステムは、当時とても斬新なもので、清潔安心を確保し、保護者の負担(努力)を少しでも軽減できればとの配慮からでした。また1人1人の成長を細かく一目でわかるよう工夫された成長記録など、ハードソフト両面にわたりここまで乳児専門施設として行き届いた保育所は全国でも珍しく、国や地方行政の関係者をはじめ、全国各地から見学者は絶え間なく、園長、主任は、その対応に忙殺された時期もあつたようです。また当時「都島乳児保育センター」に入るのは、大学に入るより難しいといった笑い話もありました。

昭和48年に、0歳、1歳、2歳、計60名定員の都島第二乳児保育センターを開設しましたが、昭和50年になっても都島区内の保育ニーズは減少することなく、法人では昭和51年に都島東保育園、昭和58年都島友渕保育園、平成3年には都島桜宮保育園を新設することになりました。ただこの頃から全国的には出生数は大幅に減少し、平成元年には出生数は1.57に低下(1.57ショックと言われました)、平成5年には、1.46とさらに低下していきいます。法人でも平成4年には都島乳児保育センターの定員を90名から60名に変更します。出生数減少に伴う変更でしたが、その際、一つひとつメリット、デメリットを全職員で話し合い丁寧に検討しながら、乳セ(都島乳児保育センター)は0歳と1歳、第二都島第二乳児保育センター)は1歳から2歳、そして0歳から5歳児を包括する都島児童センターへと連なる3園連携体制を組み、0歳児から始まる一貫したカリキュラムのもとで、乳児のどの年齢から入所しても都島児童センターで卒園出来る体制になりました。もちろん法人の他の園を選んで頂く事もできます。

私たちは比嘉正子「子どもは国の宝」との思いを出発点に、日本で最初の乳児保育の専門施設を立ち上げ、以降、今日に至るまで設備の充実をはじめ、数々の見直しを行っ

時代、昭和35年に比嘉は都島乳児保育所を開設、いち早く0歳児保育を始めます。子育て経験豊富なベテラン職員3名が、0歳、1歳、2歳児の各担当になりました。保育室は診療所の一角です。設備も何もかもが不十分、あるのは職員の愛情と必死の奉仕精神……。それでも子どもにも熱があたり、事故や感染症など保育中の子どもにも突発的な異変があつた時、保育所が診療所の一角にあることはまことに心強いものでした(まさに今の病後児保育の先取りでした)。

子どもたちの食事は本園(都島保育所)から運び、職員はしばしばインスタントラーメンで済ませ、しかしこのインスタントラーメン(卵入り)はなかなか好評で、今でも懐かしいと語り草になっています。保育所というより小児病棟のイメージでしたが、環境も整い、ベッドの高さひとつとつても、子どもの安全や職員の腰痛への配慮も十分に考えられるなど、色々と細やかな配慮がなされてありました。当初は着替え(上着、下着、オムツ)、布団すべて持参するもので、保育室一室の2分の1が荷物預所になってしまいう環境でしたが敷地は広く、走っても転んでも痛くない四季折々の草花の生える野原が運動場です。ウサギを野放しにしたり、冬は雪遊びをしたりと恵まれた自然の中で子どもたちは育まれました。

昭和40年代に入ると、就労する女性の数はますます増加し、職場においても女性是不可欠な存在としてしだいに定着していきました。それに伴い、乳児保育の要求は社会的に急速に高まり、乳児保育も本格化します。そこで昭和41年、比嘉正子は住居と保育所を隣接させた都島乳児保育センターを設立します。1階が、事務所、会議室、給食室、沐浴室等を併設した0歳・1歳・2歳児の保育所、階上の2階3階4階は賃貸住宅という構造です。あくまで子どもが生活する場は第一に家庭、だからこそ家庭生活が営まれる住居と保育所は近接していることが望ましいとの考えからです。しかも賃貸住宅で乳児保育の資金調達を図るとのアイデアも込められていました。どんどん申込みがあり、(今の年度途中入所)8月には、60名から90名へ定員変更し

てきました。一昨年には職員たちが約2年の月日をかけて法人の乳児保育の集大成である乳児保育のガイドブックを完成させるなど、子どもたちはもちろん、保護者の皆様、そして法人の職員にとつても、いつそうより良い環境を実現するため、不断の努力が続けています。

法人のもつ先見性、先駆者としての「歴史と伝統」は、まさに、「古きを訪ねて新しきを知る」。乳児保育のみならず、「子育てサロン」「一時保育」「生活相談」「研修センター」等々、地域に根差した地域に貢献できる社会福祉法人として、制度や社会の狭間の中から新たなテーマを探っていく社会福祉の先駆者であり続けたいと考えています。



都島乳児保育センターの0歳児の姿

日々めざましく成長する0歳児。2月現在で1歳の誕生日を迎えた33名、11ヶ月2名の大集団です。

「こんなに歩けるようになってる!」「自分でつかみ食べしている!」など感動する毎日です。

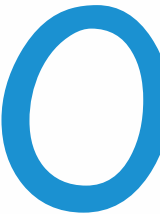
運動機能の発達の中で、お友だちにぎゅっとひついたり、よしよしと頭を撫でてあげたりする姿はとても可愛らしいです。

月齢や発達段階も様々で一人ひとりに寄り添える保育が大事だという気付きとともに、保育士自身もまた成長できているのだと思います。

また、保護者の方の中にも初めての子育て、初めての集団生活(保育園)という方も多くおられ、互いの信頼関係を築いていくなかで毎日の子どもたちの成長やエピソードなどを伝え合う中で、喜びを共感しています。



0歳児



都島友渕乳児保育センターの1歳児の姿

ハイハイからひとり歩きができるようになり、運動面・言語面において人間のとして一番楽しくドラマティックな発達を見せる1歳児。身近な人との関わりで、楽しいことを吸収していく大切な時期です。言葉は、大人の真似をしたり、思いを伝えられるようにもなります。

ただ時には言葉にできず、嘸みつきやひっかきが多くなる時期でもあります。

ヒヤリハット(ヒヤリとしたこと・ハツとしたこと)を作成し、『いつ』『どこで』『なぜ』などの原因の追求、振り返りを行い、怪我や事故を未然に防ぐように努めています。

気になることも多く、興味を示すこと、何でも「自分で!!」と強く主張するようにもなり、靴下を履く際、保育者がしようとする、「○○が!」と。でも、かかと部分が上にきてしまい、思い通りにいかなくなっても、最後まで手伝いを断り、自分でという思いを通していました。そんな時は、側に付いてゆっくり見守る(目を放すな、手を貸すな)、やりたい気持ちを受けとめ、出来たという達成感(なんと、素晴らしいことか)。

前記のように、1歳児の子どもたちと関わるうえで、自分でやってみようとする自我の育ちをしっかり受けとめ、一人ひとりを大切に、達成感を共有できる楽しい1歳児の姿です。



1歳児



乳児保育のエキスパートとして

都島友の会の乳児保育

昭和35年、日本で最初の乳児保育の専門施設として都島乳児保育センターを立ち上げた都島友の会。昭和48年には都島第二乳児保育センター、平成13年には都島友渕乳児保育センターを開設。以来法人では先輩たちのさまざまな知恵や工夫に学びながら、乳児保育のエキスパートとして数々のノウハウを蓄積し、日々新たに保育やスキルの研鑽に努めています。一昨年には法人職員たちが約2年の月日をかけて乳児保育のガイドブック「乳児保育～子どもたちの健やかな育ち～」を完成、現在では法人全体のいわば乳児保育のエッセンス、教科書となっています。

共通の理念、統一された保育に基づく法人各園の乳児保育の様子を子どもたちの楽しい姿と共にお届けします。

都島第二乳児保育センターの2歳児の姿

4階建ての我が園は2階が保育室、3階は子育て支援・一時保育、4階が都島児童館と幅広い年齢の子どもがたちがいいます。残念なことには園庭はありません。しかし園庭はなくても滑り台やメリーゴローなど、さまざまな遊具が設置された広い屋上があります。子どもたちは屋上で走り回り、くたくたになる程遊んでいます。屋上に行くには4階分の階段を昇らねばならないので、体力づくりにとても役立ち、おかげで子どもたちの脚力はぐんぐん伸びています。どんだん力をつけていく子どもたちに圧倒されることもしばしば。今の環境の中で著しく発達する乳児の時期の成長をしっかりと援助しながら保育にしていけることを大切に、日々子どもたちと過ごしています。



2歳児

都島桜宮保育園(0歳児)

もも組の初舞台♪『トトロ』ではなく、もも組なのでかわいいモモロちゃんに大変身!動物さんたちに出会い「どうぞ」つと、おいしい木の実を食べさせてあげたり、手作りのどんぐりマラカスで遊びました。かわいい姿に会場もほっこりでした!



都島友渕乳児保育センター(1歳児)

「おいっす」のかっこいい掛け声と共にみんなが「いす」の応援団に大変身!! エキスパンダーで体を鍛え上げましたよ。

成育児童センター(1歳児)

～1歳児らっこ組『らっこ広場』～いつも生活している保育室に小さな舞台を作って歌や体操を披露しました。ミニ発表会の後は親子で触れあいあそび。



乳児たちの晴れ舞台 乳児発表会

都島第二乳児保育センター(2歳児)

児童センターのホールで発表会!ワクワクドキドキしたのはお家の方も一緒!でも子どもたちのキラキラ笑顔に、みんなホッコリ☆大成功でした!



友渕児童センター(2歳児)

子どもたちの大好きなお話、「あかずきちゃん」をしました。初めてのセリフに緊張しながらも、大好きなお家の人の元で声が届くように頑張っていました。



都島乳児保育センター(0歳児)

出番までドキドキ!出てきてびっくり!お家の方を探してキョロキョロ!ニッコリ笑顔で舞台にたつことができました!

都島東保育園(2歳児)

間もなく、幕が開きま〜す!!幕の中で、開始を待つ子どもたち。「いつ始まるの?」と、みんなが担任の方を見て、ドキドキ!緊張しています。

都島児童センター(1歳児)

大好きな絵本「とんとんとん」の劇あそびの中で会話をしている様子や、気持ちを楽しく表現している姿など、子どもたちの成長した姿がぎゅゅとつまった発表会になりました。

都島桜宮保育園分園



開設にあたり、オーナー様や近隣の皆様にご理解、ご協力いただいたこと心よりお礼申し上げます。

都島桜宮保育園分園は0～2歳児を対象にした乳児19名の小規模園です。「三つ子の魂百まで」と申しますように0歳からの3年間はこれからの人生の根っこを育てる大切な時期です。まず育つてほしい大切なことは生涯における愛情の絆・愛着、コミュニケーションの喜びです。目に見えない心の育ち、愛着を築いていけるよう丁寧に保育していきたいと思っております。また保護者の皆様とは子どもへの育ちについて、その大変さを分かち合い、信頼関係を築き、子どもの成長を一緒に支えあうパートナーとなるよう努力していきたいと考えております。

都島桜宮保育園本園との連携を大切に、本園で行われる行事には積極的に参加し、また同じ年齢の子どもたちとの交流も盛んに行っています。

本園同様、親切・丁寧な保育を心がけてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



明るくゆとりのある空間で子どもたちのびのび！！



都島友の会の新しい仲間をご紹介します！！



都島友の会では、待機児童対策や地域からの熱いご要望を受け、新たな保育園や児童発達支援センターの設置を目指してきました。今回、平成29年1月に都島桜宮保育園分園がオープン、3月には城東区に「児童デイサービス せいいく」を開設、法人に新たな仲間が誕生します。今後も法人各園が連携を強化して、地域のお母さんたちが安心して子どもを産み育てられ、すべての子どもたちが良質な保育を受けられることを目標としてがんばってまいります。

都島桜宮保育園分園

大阪市都島区都島本通 1-14-16 Tel.06-6180-5235



都島桜宮保育園分園 中村 知代



2017年1月、新しい1年の始まりに都島桜宮保育園分園がスタートしました！

児童デイサービス せいいく

大阪市城東区成育 2-6-17 Tel.06-4255-6660



こども発達サポートステーション
それいゆ 仲田 恵利子



以前より、こども発達サポートステーション「それいゆ（旧都島こども園）」を卒・転園された保護者の皆様から、都島区外にも法人の療育事業を拡げたいと熱い要望がありました。その思いにお応えすることが叶い、平成29年3月8日より城東区成育に児童発達支援・放課後等デイサービスの事業所を開設する運びとなりました。

児童発達支援事業では、少人数の単独療育や親子通園、放課後等デイサービス事業では、余暇活動支援や学習支援など、児童や学童児一人一人に合った療育支援に取組みます。

子育てに関するいろいろ相談もベテラン職員が対応します。

保護者が安心して、子どもたち自身の世界が広がり明るい未来へと繋げていく手助けをさせていただきます。

をされていた建物を大改造し、家庭的な雰囲気の内装が生まれ、都島桜宮保育園分園が誕生しました。

0歳児ふたば組はクリーム色を基調とした、やさしく温かなイメージのお部屋。天井に新たに作られた大きなトップライトからはやさしい光が差し込みます。ぬくもりある木の床、木製の対面式個人ロッカーは保護者の皆様からも使いやすいと好評です。浴室は子どもたちが安全に清潔に心地よく生活できるよう新設されました。

1、2歳児たんぽぽ組は、グリーンを基調とした明るく元気なイメージのお部屋。天井がとても高く、斜めにカットされているのでおしゃやかなデザイン。布入れの家具は改装時に余ったグリーンの壁紙をいただき、職員でDIYしました。ほか、自慢のガーランド、カフェカーテン、壁面の額なども保育者の愛情がたっぷり詰め込まれた、温もりあるハンドメイドです。



日当たり最高！広々とした保育室



優しく暖かなイメージのふたば組の保育室

都島駅から徒歩6分、都島神社西側の閑静な住宅街に都島桜宮保育園分園が新たに開設されました。南向きで日当たりのいい保育室には、さっそく子どもたちの笑い声がにぎやかに響いています。

待ったなしの待機児童対策に向けて、一昨年末から計画を始動し、開設場所を探し続け何十件の物件をめぐりました。大阪市の規制にあった建造物であること、広さ、採光、災害時の避難経路の確保などの条件を満たすものであることはもちろん、オーナー様、近隣の皆様のご理解など、ここ都島での物件探しはとてもハードルが高く困難を極めました。

しかし、昨年の夏の終わりに現在の物件をご紹介いただき、以前デイサービスをご利用されていた皆様、以前から地域の皆様からのご理解やご支援のおかげで、いよいよ都島桜宮保育園分園がスタートしました。

子育てで、こんな「困った」はありませんか？

都島友の会では、こんな保育もしています。ぜひお気軽にご利用ください。

病後児ルームひまわり

都島友測乳児保育センターでは、大阪市からの委託事業として病後児保育『病後児ルームひまわり』を開設しています。病後児保育とは病後やケガの回復期のお子さんをお預かりする保育のこと。体調が悪い子どもにとつて、不完全な状態で集団保育に戻るとよりかえってしまい、また状態が悪くなることもあります。「熱は下がったけど、あと1日お休みしたらスッキリするのにな...」でも、どうしても仕事は休めない」といったような時にぜひご利用してみてください。

どんな風に過ごしているの？

病後児保育では、少人数でゆっくり過ごせるようにそれぞれのお子さんの体調に合わせて保育内容を工夫しています。

登園時には、お子さんの状態を詳しくお聞きし、「たくさん寝かせて欲しい」「消化の悪い食べ物はやめて欲しい」など保護者の方の要望にもできる限りお応えしています。降園時にはお子さんの1日の様子を記録した用紙をお渡しし、詳しくお伝えしています。また家庭での看護についてのサポートも行い、時には病気だけでなく育児中のちょっとした疑問などの相談にも応じています。

利用者の方の声

利用者の方からは、「体が本調子ではない時にゆっくり静養ができて良かった」「こんなに手厚くみてもらえるとは、思わなかった」という声もたくさん頂いており、兄弟で続けて利用して頂いている方も多くおられます。

子育て中と病気とは切っても切れないものです。仕事と子育ての両立に頑張っておられる保護者の方の気持ちに少しでも寄り添いながら、そのお手伝いができればと考えています。

まずは、いざと言う時のためにも、お気軽に見学にお越しください。



一時保育「すくすく」

一時保育をご存知ですか？通常の保育とは別に「保護者の傷病・入院など」「育児疲れによる保護者の育児負担の軽減」「就労」などの理由で、子どもを一定期間だけ預かるシステムのことです。

都島友の会では平成4年より一時保育として保育園の各クラスに1〜2名の子どもたちの受け入れをはじめ、平成14年度には利用者は1000名を超えたため、平成15年度に一時保育のクラスとして「すくすく組」を開設。利用者は一気に2000名を超え、年度によっては4000名を超えるようになりました。そこで平成27年度からは育児軽減・通院等で不定期に利用する「すくすくチーム」、就労などで年間を通して利用される方を中心とした「パンダチーム」とクラスを2つに分けました。「すくすくチーム」では日中は子どもの人数や様子に合わせて過ごし方を変えるなど、家庭では味わえないあそび・あそびを通じて「楽しい場所」と感じてもらえる環境づくりに努め、0歳児は赤ちゃんには家庭的な雰囲気の中で落ち着いて過ごせるように工夫をしています。また「パンダチーム」は毎週決まった曜日に登園しており、散歩や制作、体育あそびなどの集団活動も取り入れています。

一時保育を利用することで、気持ちにもゆとりができ、『子どもにもゆとりと関わりが持てるようになった』『保育園での体験を通じて成長のうれしさを感ずる』との保護者の声もあります。これからは様々な「育児の悩み」に寄り添いながら、子どもたち、そして保護者の方々の笑顔が増えていくように、私たちも「笑顔」で取り組んでいきたいと思えます。

地域子育て支援拠点事業「のびのび」

今年度は「のびのび」に行ってみたくいけれど知らない人ばかりの場所には、不安でなかなか行けなくて...という声に応え、『はじめの二歩の日』と『赤ちゃんのはじめの二歩の日』をつくり、初めて利用される方に職員がゆつくりと関わらせていただく日を毎月1日ずつ設け取り組み始めました。どちらも好評で、毎回新たな出会いがあり、『はじめの二歩』が二歩三歩につながっています。

これからも育児の応援隊として寄り添い、時には「がんばってるね！」の気持ちでみなさんの思いを受け止め、時には「それでいいんだよ！」「ゆつくりやっつけていこう！」の気持ちでみなさんの背中をそっと押し励まし見守り続けたいと思います。

一日平均15組ほどの利用者があり、対象年齢は就園前の0歳〜3歳の子どもとその親が利用されています。



■利用者状況

	4月〜12月	
	大人	子ども
新規利用者	183名	200名
利用者	大人	子ども
述べ人数	2,328名	2,443名

地域に根差した子育て支援を目指して、平成22年につどいの広場（フレンドリーともぶち）が開所されました。

広報誌やブックスタートでフレンドリーともぶちの存在を知り、遊びに来てくださった方の口コミで徐々に広まっていき、今では毎日定着して親子が遊びに来ています。

自由に遊ぶだけでなく絵本の読み聞かせや誕生日会、離乳食試食会等のイベントをすることで、初めて来た人も安心して帰って帰る場所作りを目指しました。

平日の10時〜15時まで開放しており、遊びに来る時間は自由というスタンスで地域の方をお迎えしている中で、お弁当を持参してくる方、午前中遊びに来る方など、それぞれが好きな時間に利用されています。

また一人での子育てに悩んでいる方が来て、些細な疑問や発達への心配などを保育士や先輩お母さん、同じ年頃の子を持つお母さんに話し、悩みが解決したり、みんな同じように悩んでいることを知り「気が楽になりました」とすっきりとした表情で帰っていく姿も見られます。

フレンドリーともぶち

友測児童センター 寺尾 麻衣



都島友の会の子育てサロン

カフェ感覚で、お気軽に！

「子育てサロン」は育児交流の場。子どもと一緒に遊んだり、ママ同士でお喋りしたり、子育て講習会やイベントも盛りだくさんです。もちろん情報交換や育児の相談をすることができます。子育てを楽しみながら、お友達の輪を広げ、一緒に支え合う...。ぜひお気軽に、カフェにいるような感覚でお立ち寄りください。



(平成17年度)

ゆいまーる

保育室を開放し、地域の方も利用できる

都島第二乳児保育センター 橋本 朋子

■利用者状況

	前期(4月〜9月)	後期(10月〜12月現在)
登録数	19名	17名
利用者述べ人数	244名	98名

フレンドリーせいいく

成育児童センター 矢田 優



都島第二乳児保育センター独自のサロンとして、月曜日・火曜日・木曜日10時〜12時、保育室を開放し、地域の方に利用していただいています。

保育園の中にあるサロンなので安心して過ごせ、保育園生活が体験ができる場所です。毎月1回行うイベントは、季節に応じたものや家庭ではなかなか味わえないもの（芋の苗植え・芋ほり・クッキング・給食試食会など）を親子で楽しんでいただけるよう工夫しています。また、ゆいまーるのゆつたりと過ごせる雰囲気求めて来られる方も多く、子どもの成長や育児の悩みなど職員や利用者同士でおしゃべりしながら解決の糸口を探ってみたり、新しいお友だち作りができる心地よい場所になっています。

0歳〜2歳の子どもとその親が開室日に自由に遊びに来られています。

生きる権利・育つ権利（第6条）
 意見を表す権利（第12条）
 表現の自由（第13条）
 休み、あそぶ権利（第31条）
 子どもの権利条約より抜粋

あそびと生活を通して、
 子どもの健全な育成を図る

都島児童館

都島児童館 岸本 貴裕



渡・松島両保育園で作品展を開催

テーマは魅力いっぱいの“おきなわ”



沖縄 伊禮 良樹

渡保育園



松島保育園

昨年12月7日から9日までの3日間、渡・松島両保育園で《おきなわ》をテーマに作品展を開催しました。沖縄の魅力・楽しさを、子どもたちがいったいどのように表現してくれるのか？渡、松島、それぞれにアイディアや工夫を凝らしながら、皆で制作を進めました。

渡保育園では、4、5歳児の子どもたちが版画やシーサー、ヤンバルクイナや琉球亀、スクラッチで壁面づくりといった一人ひとりの作品だけでなく、王城の地、首里城や龍潭池を共同作品として制作しました。3歳児は首里城内にある、水の女神さまが祀ってある弁財天堂を大好きなケーキに見立てた作品に、また日本最西端にある与那国島の海底遺跡を空き箱を利用して作り、沖縄のエメラルドグリーンのにぎやかな海と共に表現しました。2歳児はちゅらみ水族館と子どもたちの道ジュネーをイメージした「エイサー隊」を、0、1歳児は、沖縄のニラ入りヒラヤチーと一緒に作り、沖縄の食堂にオジー・オパーの人形が「めんそーれー」といわんばかりに立っています。どのクラスの作品もきれいな沖縄の空や海の色合いをうまく出し、見事な作品になりました。親子で作品展の入口に立ち「すごいー！みんな作ったのですか？」と感心していた保護者の方々でした。

一方、松島保育園では、沖縄県をテーマに作品づくりに取り組み、0歳児は糸満市のハーリー船、1歳児は、読谷村のおいしい紅芋や沖縄独特の赤瓦の家、2歳児は名護市で作られるお父さんたちの大好きなオリオンビール、3歳児は美ら海、4、5歳児では那覇市にある首里城、全クラスの子どもの共同作品として沖縄県の地図を立体的に、本島、石垣島、宮古島までリアルに作り上げていました。

渡・松島両保育園では、作品展を通して子どもたちの創造性や感性を育むとともに、「作る」ことの楽しさや、「やり遂げた」という達成感を大切に、子どもたちや保育士の成長へと繋がっていきたくて考えています。これからも子どもたちと楽しい行事を行い、より良い保育を目指して職員一同、頑張っていきたいと思っております。

平成29年度4月 都島児童館に新しい 生活クラブが誕生します！

入所児童の増加に伴い、都島生活クラブ1組・2組・高倉生活クラブ・中野生活クラブ・友淵生活クラブに加え、高倉町に「御幸生活クラブ（仮）」がこの春に誕生します。都島児童館が必要とされ、仲間が増えて活動の幅が広がることは嬉しいことです。

数が増えてもしっかりと一人ひとりと向き合い、それぞれの子どもたちの思いや育ちが尊重される安らぎの場所となるよう努めてまいります。

児童憲章
 児童は、人として尊ばれる
 児童は、社会の一員として重んぜられる
 児童は、良い環境の中で育てられる
 子どもの最善の利益（第3条）

都島児童館の役割って？

都島児童館は、児童福祉法で定められた「放課後児童健全育成事業」として、あそびと生活を通して子どもの健全な育成を図る施設である。そのため職員は、子どもたちが健やかに育っていくようにと、日々子どもたちと関わり過している。

しかし、保育や教育などの専門的な知識や資格を持ちながら、時には研修を通して児童福祉について学ぶものの、都島児童館が担う役割を「放課後の子どもたちがあそびと生活を通して健やかに育つ場所」という分りやすいようであり、いま必要の得ないイメージのもと、目の前にいる子どもの笑顔のために尽力しているのが現状。きつとそれも正解なのだろうけれど（子どもの笑顔がすべてだと言いたいところだが）、入所児童が増えて新設の施設もできようとしている過渡期ともいえるこの時期に一度立ち止まり、改めて「都島児童館」としての役割や私たち保育者が子どもたちとできることについて一から学ぶ機会を作った。

ひとりのにんげん

やるならとことん、憲法から現代における福祉の在り方まで勉強したのだが、その内容は意外にも堅苦しいものではなくむしろシンプルで、児童館の役割をより明確にするものであった。子どもも大人と同じひとりの人間として尊重されること。それは至極当然で誰もが知っているであろう理念にも関わらず、初めて聞いた言葉のように感動し深く納得したのである。子どもたちが過ごす児童館とは、それが守られるべき場所なのだ。と再認識できたことは大きな収穫であった。

子どもが主役

子どもの思いを尊重することは「できたらいね」ではなく守らなければならないことで、決まっていること。子どもたちは自ら尊重されるべき存在だと知り、自尊心を育んでいく。「ありのままの自分であっていいのだ」と認識し、それが生きる力となっていく。その育ちを保障するのが児童館の役目なのである。だからと言って生活習慣を蔑ろにはできない。けれど、その前にそれぞれの声に耳を傾けることはできるし、思いに寄り添うことだってできる。「したくない」という一見マイナスイメージの言葉でさえも、その子の主体的な言葉として捉え尊重することができるのだ。

尊重すること

「この間、ある男の子がゴロゴロと寝転がっていたんです。部屋が散らかっていたので掃除してもらおうと思って「いまヒマ？」と声をかけると、その子は「いま忙しいねん」と答えた。その時は「暇やろー」とついでに掃除してもらったんですけどね」

「宿題しいや」「いましようと思っただけ」というようなお馴染みの光景が微笑ましい。きっとその男の子と保育者は気の置けない関係で、普段からこんな風に軽口を叩き合っているのだろう、と想像できる。

けどね、いまゴロゴロしていたっていう気持ちでいるのなら、それを汲みとってよかったのかな。いつも何気ない関わりを振り返る。

知識や理念も大切だ。しかし、日々の関わりを、本当にこれでよかったのかと顧みることこそがより良い保育に繋がる唯一の方法なのだ。と改めて思う。それを「続けられてこそ」意義深いものになるのだと、勉強会を終えて満足しかけていた自分に鞭をうつ。



気持ちいい??
ウォーターベッドも購入

たたみコーナーで休憩



新しくなった
「デイサービスセンター ひまわり」

新しくなった2Fホールは
食堂の他、いろいろなイベントや
レクリエーションに活用しています

85周年を迎え、区民ホールでの記念式典や数々のイベントを終え、2017年、こころ新たに、新時代にふさわしい再出発をいたしました。

この85周年の記念事業のひとつとして、「デイサービスセンターひまわり」を全面的に改装いたしました。

利用者の方々のためにスペースを大きく拡張し、美しく、明るく、カラフルになり、使い勝手も大変良くなりました。

利用者の方が思いのままに自由に使用いただける機能回復訓練のためのリラクゼーションコーナーも新設し、楽しく身体機能を向上させる新しい機器も数多く設置しています。

また、誰もが集い、寝ころべる「琉球だたみ」をしつらえた「たたみコーナー」も新設しました。

浴室は広々として、「ゆったり」おくつろぎいただき、車いすの方はリフト機を備え「安全、安心」してご利用いただけます。

食事も一流のイタリアンシェフが腕を振るって、四季折々のメニューや毎月のイベント食はもちろんのこと、「和、洋、中」と多種多様に提供させていただき、皆様に「おいしい!」と大好評を得ています。

お世話をする若いスタッフも「おもてなしの心」で丁寧な、笑顔一杯で地域の利用者の方から大変喜んでいただいております。

是非、新しくなった「デイサービスセンターひまわり」にお越しください。

都島友渕乳児保育センター



フロアーマットを張り替えて
安全、安心、衛生的に

園長が昨年8月より新任となりました。前園長より託されたのはエレベーター前にあるフロアーマット張り替え。子どもたちが安全、安心、衛生的に過ごす為にも、まず園の顔である玄関先は美しく清潔でなければ、との前園長からの心構えと受け取りました。一人ひとりの子どもに寄り添い、保護者との連携を大切に保育。小さな園ならではの良さを最大限に生かしていければと思っています。ハイハイの時期、つたい歩き、ヨチヨチ期と「這えば立て立てば歩めの親心」とこの時期の成長を見守りながら、保護者の方に安心していただける保育と環境づくりをこれからも心がけていきます。

認定こども園 友渕児童センター

音楽活動に力を入れて取り組んでいます
知・徳・体を大切に友渕児童センターの教育保育。中でも音楽には力を入れています。「0からはじまるド・レ・ミ」と題して、乳児から段階を経て音楽に取り組む過程を研究発表し、年長になった時には合奏やマーチングなどすばらしい演奏が出来るようになっていきます。初代理事長が沖繩出身と言うこともあり、運動会や発表会にも沖繩音楽や舞踊を取り入れ、今年も運動会では年長組がパーラックを披露、法人85周年を職員と共に祝いました。本年は沖繩太鼓を年長児の記念品として購入していただきました。今後も音楽の持つ力を子どもたちに伝え、沖繩太鼓の音色が響く機会を大いに増やしていきたいと思っています。



平成 28 年度 各園各施設の取り組み



平成 28 年度は法人創設 85 周年を迎えた記念すべき年でした。

新しい施設の開設と共に、各園各施設、安心・安全・快適を基本に教育保育に向けての一層の充実、

園の記念行事やイベントなど、様々な取組を行いました。

来年度への目標も含め、その一端をご紹介します。

認定こども園 都島児童センター

パパによるパパのための「パパイベント」を開催！
11月26日(土)、「アメトーク」ならぬ「パトーク」で話をしよう!!ということで、12組の親子による初の「パパイベント」を開催。普段の子育てでの中の父親の役割といった教育談義から自己紹介では普段のお父さんのイメージからは想像できない趣味の話や家族自慢も飛び出すなど大盛り況!「腕相撲対決」ではにこやかな表情も「変身」「大人の本気」を間近で見ることができました(笑)



職員の仕事の効率大幅アップ!



合言葉は

① かんを有効に使って ② どんな仕事も う〜んと抱え込まず
③ せせと帰る うん そうしよう ④ いむいずまねー
⑤ のーざんざよう★

「プレミアムフライデー」という言葉もでき、働き方改革に注目が集まる昨今。都島児童センターでも職員の仕事の効率化を図るため新たにパソコンを複数台購入しました。

都島乳児保育センター・都島第二乳児保育センター



都島乳児保育センターは創立50周年。都島児童センター・都島第二乳児保育センター・都島乳児保育センター、三園合同の運動会で、創立50周年をお祝いしてエイサーを踊りました。また、にゅーじーパラダイス(発表会)では子どもたちがキーキに飾りつけをしてお祝いしました。これからは60周年、70周年、100周年に向けて職員一同力を合わせて頑張ります。

都島乳児保育センター創立50周年



保護者会主催『都島東保育園40周年ふれあいまつり』
大盛況だった「ふれあいまつり」の中で、しゃぼん玉ショーがありました。たくさんのお父さんが参加、普段では見ることのない大量のしゃぼん玉に、子どもだけでなく保護者の方も大喜び。しゃぼん玉を追いかけ、多くの子どもが舞台上に押しよせる姿に、パフォーマーの方も圧倒されているようでした(笑)

乳児保育ガイドの研修



今年度法人内研修で、都島乳児保育センターは昨年度完成した乳児保育ガイドの研修を行いました。ガイドブックは、新人職員や初めて乳児保育に関わる職員が読むことで乳児保育についての理解を深めることを目的として作成されたものです。参加した職員からは「ガイドブックを読むと乳児保育のことがよくわかる」「普段の保育を見直し、再確認することができた」など多くの感想が寄せられました。



保護者会費(バザー収益金・年長児積立金)で買っていたいた宮太鼓。ふれあいまつりや発表会で年長児が迫力ある演奏を披露しました。今後も大切に使用させていただきます。

心はひとつ！ 多くの気持ちが合わさって。 多くのアイデアを持ちよって。

都島友の会では、職員同士の親睦を深め、全職員が交流できるイベントを定期的に開催しています。また日々の仕事からいったん気持ちをリフレッシュできるように、法人全体や各園で、それぞれアイデアや工夫を持ちよって、様々なイベントや行事を行なっています。今回はそんな楽しい取り組みを皆さんに紹介します！

都島児童センター 小倉 早織

ひまわり会の忘年会が昨年の12月22日にありました。1年間の疲れも吹き飛ばすくらい食べて、飲んで、笑った会となりました！ビンゴゲーム大会にイントロクイズからの仮装ダンス大会も大盛り上がりでした。

都島友の会忘年会



職員による余興！今年は子どもたちが発表会で披露したお遊戯やフラダンスを踊りました！

ひまわりの郷は、入居者の生活の場でもあります。入居者の介護をする職員も24時間体制で勤務をしています。その為、ひまわり会のビールパーティーや忘年会に参加したくても、勤務の都合上どうしても参加の出来ない職員が毎回出てしまいます。そこで、今年法人設立85周年記念の一環として、理事長の計らいにより、11月22日「ひまわりの郷職員慰労会」を開催していただきました。会場はビールパーティーでもお世話になっているリバーサイドホテルさんです。初めのうちは緊張気味だった職員も、アルコールの力も手伝い、時間の経過とともに楽しい雰囲気の中、過ごすことができました。途中カラオケ大会があり、普段は入居者と懐メロばかり歌っている職員も、ここぞとばかりに大いに盛り上がりました。最後に理事長・事務局長と記念撮影を行いました。

ひまわりの郷職員慰労会

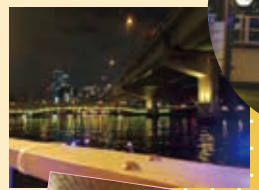
リラックスモードの中、楽しいひと時を過ごしました♪



各園の厚生活動

H28年度の職員旅行はウェルネスこども村へ。隣の公園ではチーム対抗のミニ運動会♪大縄跳び、ドッジボール、最後にリレー。パーベキューの高級食材をめぐり、白熱した戦いが繰り広げられました。みんなで身体を動かす中で親睦も深まり、ミニ運動会後には広い庭でのパーベキューを楽しみました☆

都島桜宮保育園



都島児童センター



今年には慰労旅行ではなく、ボーリング大会と食事会！お酒も入っていい気分♪賞金には目がなく大盛り上がり!! 食事会は屋形船へ! 局長さんの歌声を聞きながら景色を楽しみました☆



夏に都島乳児保育センター! 都島第二乳児保育センター! 都島児童センターの3園合同でビアガーデンに行きました! 職員間の交流もでき、とても盛り上がりました!



平成28年度の職員採用活動と次年度に向けての課題

「待機児童問題」が深刻な問題となり、その要因として保育士不足が待機児童対策の大きな壁になっています。このような現状に対して、前号では法人がどのようなリクルート活動の取り組みをしているかを紹介しました。今回は今年一年の法人の取り組みとそこから見えてきた課題、そして次年度に向けた新たな取組についてご報告します。

採用試験に向けての活動報告

- 本部事務局長、及び園長3名による採用検討委員会の立ち上げ
- 年間のスケジュールをたてる
- 4月18日(月) 平成28年度第一回採用検討会
- 20日(水) 第二回採用募集要項の内容検討会
- (3次募集まで日程を決定)
- ・ 就職総合フェアに関する冊子等の原稿作成
- ・ マイナビによる法人の採用情報を公開
- 5月〜6月 職員による養成校訪問(短大13校、大学9校の計22校)
- ・ 局長、園長9名、卒業生となる1〜2年目の職員が各養成校を訪問。法人のPRを行うと共に、採用説明会・採用試験受験の依頼、卒業生は保育士となった近況報告を行った。
- ・ 養成校からは卒業生の様子を聞くことが出来、在校生からは年齢の近い保育士から身近に保育の仕事の様子を聞いて良かったとの声をいただいた。
- 6月26日(日) 法人採用説明会
- ・ 「こづめん流し」で園行事の体験。
- ・ 職員作成のDVDでの法人紹介や、若手職員との質疑応答を設けた。
- 7月2日(土) 大阪市私立保育園連盟就職フェアのブース参加
- (西成区民センター)
- 16日(土) 大阪社会福祉協議会の就職総合フェアブース参加
- (インテックス大阪)
- 8月〜10月 養成校訪問
- ・ 第一〜第三次採用試験。
- ・ 四次募集以降について検討し、応募者の意向を聞きながら個別に対応できる受験を実施。
- 12月 採用内定者の説明会
- 2月 四次募集以降の採用内定者の説明会
- 2月〜3月下旬 採用内定者が各園で実習

平成28年度 3月現在 新採用者数23人

来年度、新人採用者研修

採用内定者説明会

法人採用説明会

この1年間活動してきた中で、職員採用に向けて見えてきた課題として、これまでの法人の歴史や伝統、知名度に安住することなく、法人をもっと強く積極的に印象付ける必要があり、そのためには法人の特徴や特色を改めて分析。法人の魅力あるアイデンティティの構築を目指し、その認識を職員全体に図ること。その上で、

- ・ HPでの採用情報の充実
- ・ 分かりやすく好感度のある法人の紹介パンフレットの作成と幅広い頒布
- ・ 養成校との連携やコミュニケーションを図るため、学校訪問の強化
- ・ 採用支援サイトや就職フェアへの積極的な参加
- ・ “実際の現場での仕事体験”を実感できるインターシップや実習の実施
- ・ 就職フェア等における目立つブースの構築とそのためツール作成

平成29年3月 就職フェア

リクルート用パンフ

法人案内パンフ

就職フェア タベストリー

―等の今後の課題と目標が出てきました。地域に根ざし地域に貢献する法人の理念や幅広い事業、その真摯な姿勢をより広く伝え、また私たち都島友の会が「働きがい」がある「働きやすい」職場であることをもっと強く内外に発信し、優秀な人材の確保のためさらに積極的な広報活動や情報提供を行っていきます。



子どもたちの期待と夢をつなぐ幼・保・小連携

「小学校、楽しみ！」



Q.幼稚園や保育園とは具体的にどのような連携をされているのですか？

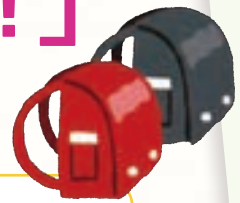
川畑教頭先生

幼保小の連携として、職員同士の交流会議を行っています。新1年生の担任と特別支援の担任と一緒に参加して、「来年はどんな子が来ますか？」とか「今の1年生はこんな感じです。」とか情報交換をしています。また今年度は初めての試みとして、5月の最初の参観日や学芸会に保育園の先生を招待して子どもたちの様子を見てもらうつもりです。

Q.子ども同士も交流しているのですか？

子ども同士の交流としては、地域の方に1年生が「昔遊び」を教えてもらい、それを練習した後に今度は保育園の子どもたちを学校に招待して一緒に遊ぶというような試みをやっています。

他にも保育園の散歩コースとして小学校に来てもらい、校庭で一緒に遊んだりとか、出来るだけ子どもたち同士が親しくなる機会を設けています。



先日、都島児童館で新1年生の入館の面接を行った時、子どもたちに「小学校に行くのは楽しみ？」と尋ねると、ほとんどの子どもたちが元気良く「楽しみ!!」と答えてくれた。保育園で生活してきた子どもたちにとって初めての大きな環境の変化、「小1プロブレム」という言葉もある中で本当に不安な気持ちがないのかな？と思ったりもする。そんな時、中野生活クラブの子どもたちが、「今度保育園に行つて、あそびを教えるねん!」と話すのを耳にした。保育園と小学校の交流活動の一環らしい。今いったいどんなことをしているのだろうか？と中野小学校の川畑教頭先生、そして都島校舎保育園の李主任に幼・保・小連携の現状についてお話を伺った。



Special Report

「幼・保・小連携」って何？先生方に訊いてみた。

都島児童館 中野生活クラブ 米谷 征哉



李主任

Q.幼保小の交流会議について印象に残ったことは何ですか？

保育園を巣立って小学校に上がった子どもたちがきちんと友だち関係を築けているか、生活面や勉強面で大丈夫なのかって、心配してたんですけど、交流会議に出席して、新1年生の担任の先生方から子どもたちの様子を実際に聞くことができて、「子どもたち、頑張ってるんだあ!」と安心することができました。「この子はここに手をかけてあげてほしいな!」というような個別的な配慮についても、小学校の先生方も本当によく配慮してくださっていることが分かり、心強い気持ちになりました。

Q.交流会議などの小学校との交流を通して大切に感じたことは何ですか？

私たちの法人では0~5歳までの教育・保育をおこなっています。でもやっぱりその先が見えないと先を見据えた保育はできないので、小学校の先生から6年間の教育目標を伺い、保育園生活で培った力が小学校生活へとつながり、小学校生活で培った力が中学校へ...先へ先へとつながっているんだなあと改めて感じました。その流れを理解して、保育に携わっていかないといけないと思いました。保育園から小学校へと環境自体がガラッと変わるけれども、だからこそ連携は大事だなと思います。

Q.子ども同士の交流もしているとのことですが、実際に交流を通して保育園の子どもたちは小学校にどのようなイメージを持っていますか？

子どもたちは交流を通して、小学校にすごい夢や希望をもってます!保育園よりも大きくて、友だちも100人いるところとか...お兄ちゃんお姉ちゃんたちからいろんなあそびや知識を教えてもらったりしているので、「小学校ってすごいところ!」って楽しみにしています。

様々な交流を通した取り組みから子どもたちの生活の流れをつなげる

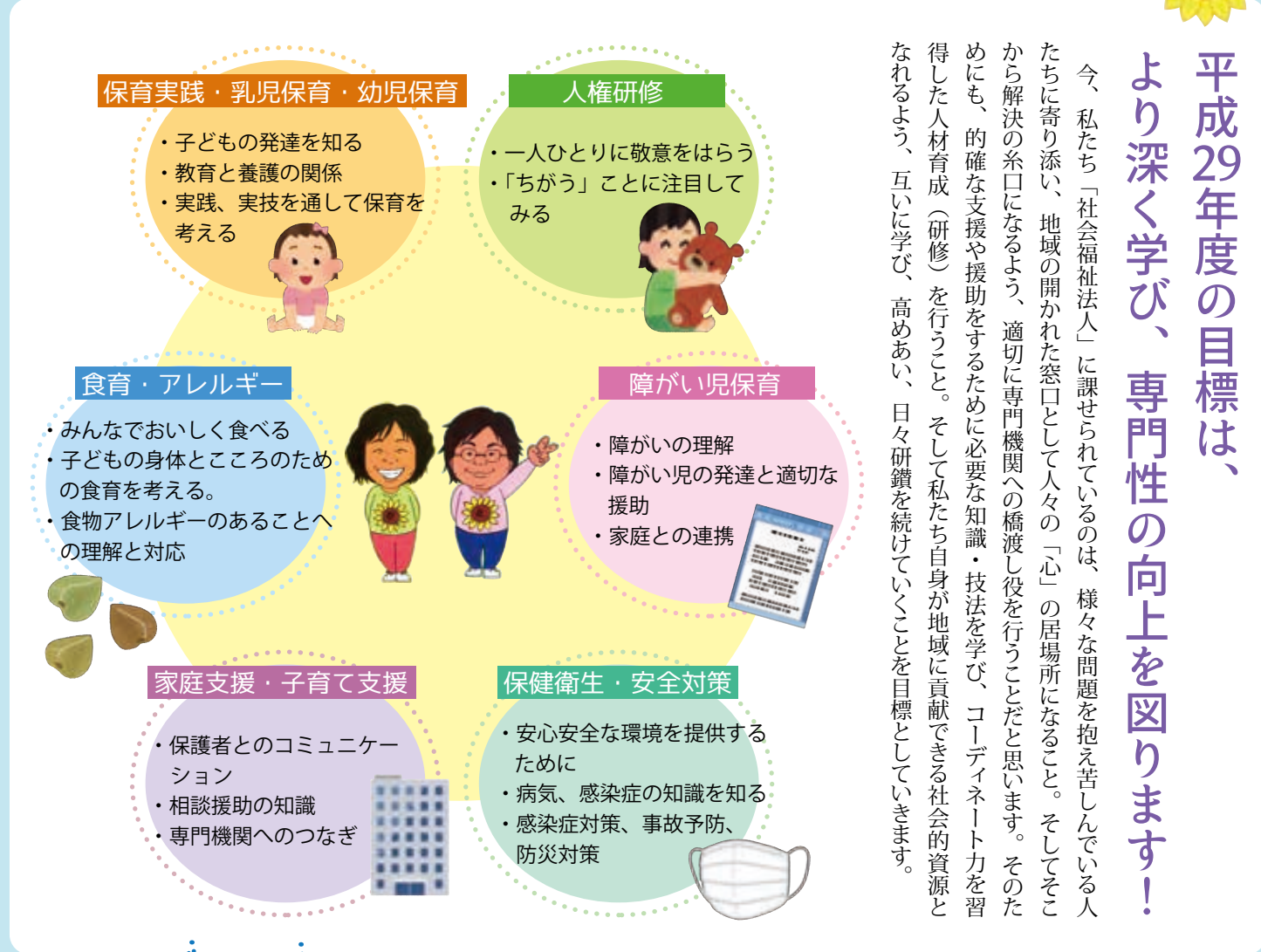
保育園や幼稚園へのアプローチ

- ・交流会議の開催 (情報交換会)
- ・土曜授業、学芸会などへの保育園の先生を招待 (卒園児の様子、授業光景の紹介)
- ・「あそび」を通じた子どもたちの交流 など

小学校へつなげる保育、小学校への親しみを育てる保育の実施

- ・散歩コースに小学校付近を選ぶ、校庭で遊ぶ
- ・目標の時間内に着替えや次の活動の準備
- ・自分のものは自分で管理
- ・給食にビン牛乳や皮付きの果物 など

子どもたちの環境の変化をスムーズにつなげるために、小学校と保育園が互いのつながりを意識しよく考えてさまざまな交流や連携を取られていることが今回の取材で分かった。このように、子どもたちを想い、交流を推進しようとの連携があるからこそ、子どもたちは新しい環境に対して「楽しみ!」と素直な気持ちで期待感を抱くことができているのだろうと感じた。



平成29年度の目標は、より深く学び、専門性の向上を図ります!

今、私たち「社会福祉法人」に課せられているのは、様々な問題を抱え苦しんでいる人たちに寄り添い、地域の開かれた窓口として人々の「心」の居場所になること。そしてそこから解決の糸口になるよう、適切に専門機関への橋渡し役を行うことだと思えます。そのためにも、的確な支援や援助をするために必要な知識・技法を学び、コーディネート力を習得した人材育成(研修)を行うこと。そして私たち自身が地域に貢献できる社会的資源となれるよう、互いに学び、高めあい、日々研鑽を続けていくことを目標としていきます。

HIMAWARI.NET 連載こらむ

ネットのきもち

平成28年度アウトリーチ型研修最後のテーマは「介護の現場からツタエタイコト」。講師は法人の高齢者施設の若い職員だった。

「若いによる衰えや障がいによってなんらかの支援が必要な利用者に対して、その方の痛みやつらさを受けとめ、共感することによって、利用者のことをよく理解することが出来ます。共感的理解の能力が高いと生活支援を行うときに利用者の本当の思いを感じることが出来ます。」

彼は、日々の忙しい業務の中で「どこまでその人らしく生きることの支援ができるのか？」を常に考え、そして、

- ・利用者の思いを引き出す力(聞く力)をもっと身につけよう。
- ・上司、同僚、先輩、後輩と話をしよう。
- ・全部を実現しようとせず一部からでも始めていこう。
- ・気になる一人からまず始めてもいい、成功体験を積み重ねよう。
- ・失敗してもいいのではないか、その後の対処をしっかりとしていこう。
- ・絶対に無理だと思えたらあきらめない。

そうすれば、少しずつでも利用者のQOL(生活の質・人命の質)が向上し、利用者だけではなく援助者も笑顔になれる施設になるだろう、そう締めくくった。こんな風に考えている若い職員たちがいることを誇らしく、心強くなった。

平成29年が始まってすぐに、時々、ひまわりネットに訪ねられていたご婦人が「有料老人ホームに引っ越された。退職されたからまずつと元気で、趣味のクラシック音楽のコンサートなどを楽しんでいたが、ここ2年ほど前から少し不安を感じさせられる行動が見られ、ケア・マネージャーにつなげ支援し、なんとか一人で暮らすことができている。だが、引越される少し前から物忘れもひどく「食べることもままならぬ状態となり表情も不安な様子が見られるようになった。それでも、ケア・マネージャーが頻りに訪問し、丁寧に言葉をかけ、生活を見守ることで、不安な眼差しは消えていった。」

私たちは「いのち」をお預かりしている。0歳の赤ちゃんから101歳のおばあちゃんまで、みんなちがう「いのち」である。大切な一人ひとりの思いをどう受け止めるのか、どのように育んでいくのか、大いに悩み考え、相談し、ともに学ばばその先にはきっと見えてくるものがあるように思える。私たちはすべてに敬意を払いつつ、素晴らしい「仕事」をしていると改めて自負したい。

(地域貢献支援員 岡本 和江)



都島友の会 新しいガバナンス体制スタート

社会福祉法人制度改革が進められる中で、社会福祉法人の根拠法である「社会福祉法」が改正されました。

主な内容は、法人の経営組織のガバナンスを強化すること、地域における公益的な取組を実施する責務、事業運営の透明性の向上すること、財務規律の強化等となっています。

改正法の平成29年4月1日の本格施行に向けて、日本のすべての社会福祉法人が、その法人運営の憲法ともいえる「定款」変更することが必要となりました。

当法人においても、本部事務局を中心に準備を進めてきましたが、昨年11月11日に、厚生労働省から示された定款例や審査基準等に基づき、都島友の会の新定款（案）を作成しました。

その後、法人評議員会での意見聴取、理事会での変更議決を経て、昨年12月22日に所轄庁である大阪府知事に定款変更申請を提出。平成29年2月6日付、大阪府指令指監3-121号により認可されました。

新定款は、法改正の趣旨に沿って構成されており、第1章「総則」～第12章「公告の方法その他」まで全53条となっています。それでは主な変更点をご紹介します。

議決機関としての評議員会

経営組織のガバナンス強化のため、評議員会は、任意設置の諮問機関から必置の議決機関となりました。このため第11条に評議員会の権限として、理事・監事の選任・解任、定款の変更、計算書類の承認、事業計画及び収支予算、役員等の報酬決定など13項目の役割を規定しました。定時評議員会は毎会計年度終了後3カ月以内に1回開催するほか、必要がある場合（事業計画及び予算）に開催するとしています。

評議員会を構成する評議員は従前、定数23名でしたが、改正法では定数は理事定数+1名以上となり、また役員・法人職員と兼務が不可となったため、定数は第5条に、7名以上9名以内を置くことと規定されています。

また当法人では、地域や利用者の意見を法人運営に反映させるため、地域の代表者や利用者・家族の代表者からなる運営協議会（定数12名）を設置することを規定しています。

地域貢献の取組

地域における公益的な取組を実施する責務については、当法人は、従前、大阪府下で実施されている生活困窮者レスキュー事業に参加しているほか、独自の事業として、比嘉正子地域貢献事業研修センターに設置する「ひまわりネット」で子育て・障がい・介護等の相談事業を実施しています。定款には、第3条の経営の原則に、日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者を支援するため、無料または低額な料金により福祉サービスを提供する責務を追加しました。

事業運営の透明性の向上

改正法では、社会福祉法人の高い公益性に照らし、公益財団以上の運営の透明性の確保の観点から、定款・貸借対照表・収支計算書・役員報酬基準が公表対象となるほか、各種書類の閲覧・備置き対象が明記されました。

既に厚生労働省からの通知により、法人ホームページで現況報告書として公表しているものもありますが、法改正に沿って定款40条に閲覧・公表対象を明記しています。

財務規律の強化

新定款の主な内容は以上ですが、社会福祉法人として、公益性を担保する財務規律を強化することが求められています。適正な役員報酬、親族等関係者への特別の利益供与を法律上禁止するなど、適正かつ公正な支出管理を行うことはもちろん、社会福祉法人が所有する財産を明確にすること、そして社会福祉事業を充実にいかねばなりません。このため、全ての法人で厚生労働省が示す基準に沿って、事業継続に必要な財産を除いた社会福祉充実額の算定が進められています。

定しました。任期は従前2年でしたが、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時と規定しています。

また評議員は、従前、理事会の同意を経て理事長が委嘱するとなっていました。改正法では定款の定めるところによる選任と定められたため、新定款第6条に監事1名・事務局員1名・外部委員1名で構成する評議員選任・解任委員会がその任務を行うと規定しました。その運営細則及び選任・解任委員会委員の選任については、定款変更申請に係る理事会の際に既に承認をいただいております。改正法の施行日までに、最初の評議員（8名）を選任することとしています。

執行機関としての理事会

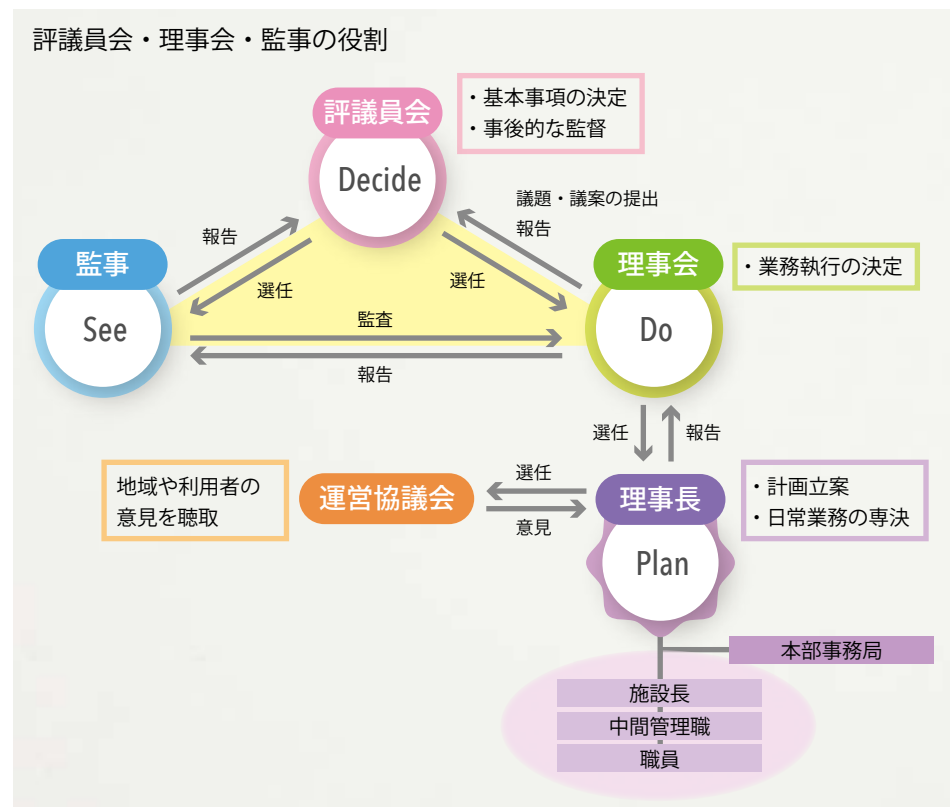
改正法では、理事会は業務の執行機関としての役割・権限を明確にしています。このため、定款第32条に理事会の職務として、業務執行の決定、理事の職務執行の監督、理事長の選定及び解職を掲げ、日常の業務として理事会が定めるものについては、理事長が専決すると規定しました。主な決議事項は、評議員会の議題・議案の決定、重要な財産の処分及び譲渡等の決定などが、法定事項として定められています。

理事会を構成する理事は、新定款では第16条・17条に、定数は6名以上8名以内とし、評議員会の決議により選任すると規定しました。任期は選任後2年以内に終了する会計年度のうち最初のものに関する定時評議員会の終結時としています。資格として、親族等特殊関係者が理事総数の3分の1を超えてはならないと定款18条に規定しました。なお施行日には、理事は7名を置くこととしています。監事の職務と権限は、第20条に理事の職務の執行の監査、監査報告書の作成、計算書類等の監査と規定しています。定数は2名で、選任方法・任期は理事と同じであると定めています。また監事は理事会に出席し議事録署名を行うとしました。当法人では監事の内1名は、専門家として公認会計士を活用することとしています。

おわりに

今回の社会福祉法の改正は、社会福祉法人の公益性・非営利性を確保する観点から制度を見直し、国民に対する説明責任を果たし、地域社会に貢献する社会福祉法人のあり方を徹底する内容となっています。

創立86年の歴史をもつ当法人は、社会環境の変化に伴い、福祉ニーズが多様化・複雑化する中で、先駆的な取組を進めてきました。法改正を踏まえ、新定款の下、より一層「ともに支え、ともに生きる」地域の社会福祉の担い手として進んでまいります。





スノーピーやチャーリーブラウンも登場！

USJの楽しいショーが やってきた!!



チャーリーブラウンと
ハイタッチ♡



こども発達サポートステーションそれいゆの子どもたちのために、ユニバーサルスタジオジャパン(USJ)の社会貢献事業(コミュニケーションプログラム)として、パークのお友だちが遊びに来てくれ、華やかにUSJ音楽会が繰り上げられました。

場所は都島児童センターのホール。誰が来るかは当日のお楽しみ☆ それいゆと都島児童サービスは親子で参加。都島東保育園や都島児童センターの一部の園児も参加し、ワクワクドキドキしながら楽しいショーは始まりました。音楽会では、「きらきらぼし」や「上を向いて歩こう」、「世界に一つだけの花」と、みんなが知っている歌だけの事もあり、子どもたちも手拍子をしたり、一緒に歌うなど盛り上げてくれました(感動!!)。

みんなの大好きなスノーピーやチャーリーブラウンがすぐ近くまで来て、ハイタッチをして嬉しそうに見える子どもや、中には緊張してお母さんの後ろへ隠れる子どももいましたが、さすがプロ!USJのワンダーワールドに引き込まれる、すてきな音楽会でした。

保護者の方からは「普段行く事が出来ないのでもとても良い経験が出来ました」と、とても好評でした。

それいゆと都島東保育園のホームページには動画もアップしています。ぜひご覧くださいー!



こども発達サポートステーション それいゆ 清水 克倫

今号の表紙



- ① 特別養護老人ホームひまわりの郷
- ② 認定こども園友
- ③ 都島東保育園
- ④ 認定こども園成育児童センター
- ⑤ 都島友乳児保育センター

編集後記

3月に入り年長さんが植えたチューリップの芽が伸びてきています。赤ちゃんの時には抱っこをしてほしくて泣いていた子が鉄棒の逆上がりを見せられました。この6年間で色々な経験をを通して、成長した今の姿があるのでしょう。

新メンバーで始まった平成28年度のゆんたく編集委員。不慣れな作業でしたが、先輩方の支えのお陰で1年で3刊の発行をすることができました。先輩方とメンバーの頑張り感謝です。私たちが編集作業を通して、成長することができたでしょうか…。

成育児童センター 山下 知子

